


イラク・クルディスタン ヤシン・テペ遺跡の全景
とレンガ室から出土したテラコッタ製のお棺



春の連続企画展

 国士舘大学
kokushikan

オリエント研究の最前線

イラク・クルディスタン ヤシン・テペ考古学プロジェクト
エジプト アコリス遺跡発掘調査

最新調査報告展

2019

4.17(水) ▶ 6.15(土)

開室時間: 10:30 ~ 16:30

休室日: 火曜・日曜・祝日

(本年度より土曜は開室いたします)

※4月28日、5月5日、5月6日、5月19日は開室していません!

入場
無料

国士舘大学 世田谷キャンパス

イラク古代文化研究所 展示室

〒154-0022

世田谷区梅丘2-8-17 地域交流文化センター2F

TEL: 03-5451-1926 FAX: 03-5451-1927

<http://www.kokushikan.ac.jp/research/ICSA/>

ミニ講座などの展示イベントの最新
情報はウェブページでご確認ください。

イラク古代文化研究所 検索

エジプト アコリス遺跡の全景と出土したミイラ



2010年末に勃発した「アラブの春」、過激派組織イスラミックステート（IS）、シリア内戦。これらによる中東地域の混乱と破壊は、中東諸国を危険で近寄りたくない存在にしていまいしました。しかし、中東地域は古代オリエントの文明を育んだ歴史的に非常に重要な地域であり、後世に残し伝えるべきたくさん文化遺産を有しています。これら中東地域を研究調査することは、人類の文明社会の発展過程を理解する上で不可欠なことであり、特定の宗教的背景を持たない日本による調査研究に対して、アラブ諸国から大きな期待が寄せられています。

本展示室では、まだ現地調査が困難な状況にあるにもかかわらず、精力的に調査を進めている日本の研究チームの成果を、「オリエント研究の最前線」というタイトルで毎春2チームずつ紹介する企画を立ち上げました。今回はその第一弾として、イラク・クルディスタンとエジプトにおける調査研究を紹介いたします。

イラク・クルディスタン ヤシン・テペ考古学プロジェクト

ヤシン・テペはイラク共和国クルディスタン自治区スレイマニヤ県南方のシャフリゾール平原に位置するスレイマニヤ県最大級のテル型遺跡です。シャフリゾール平原はクルディスタン自治区にある非常に肥沃な平原で数多くのテル型遺跡を見ることができます。

中部大学、筑波大学、国土館大学の研究者で構成されたヤシン・テペ考古学プロジェクトは、2016年から発掘調査を開始しました。その前年、2015年には事前調査で「下の町」の広い範囲に新アッシリア帝国時代の遺構があることが予測されていました。2016年の調査では、「下の町」の南東部で「Reception Suite」と呼ばれるアッシリア帝国時代の大型邸宅や宮殿などでみられる「応接室」が発見されました。このことはこのヤシン・テペがアッシリア文化の強い影響を受け、またかなり裕福な一族が暮らしていたことが明らかになりました。さらに、2017年の調査ではこの地方では非常に珍しい未盗掘のレンガ墓が発見されました。レンガ墓は、すべて焼レンガで作られたかなり豪華な墓といえます。この墓は、2016年に発見された「応接室」をもつ邸宅の地下で発見されました。墓には2時期の埋葬が行われており、最後の埋葬はテラコッタ製のお棺を墓の中に入れた埋葬で複数の遺体が入っていました。おそらく上記の邸宅の一族が葬られていると考えられます。このようにヤシン・テペからはアッシリア帝国時代の強い影響を受けた出土品が相次いでおり、世界最古の「帝国」と言われるアッシリア帝国が「地方」をどのように支配していたのか、また帝国の地方はどのような状況であったのかを知るのに絶好な歴史資料を提供してくれる遺跡なのです。

エジプト アコリス遺跡発掘調査

アコリス遺跡は、エジプト・アラブ共和国の首都カイロから南へ約230km、カイロとルクソールの間位置しています。ナイル河東岸の狭い可耕地と、荒涼とした河岸段丘の境にある高台に立地するため、現代の集落や農地の下に埋もれることなく、古代エジプト人の活動の痕跡が良好な状態で残っています。それは岩窟マスタバ墓が造営された古王国時代に始まり、都市が放棄されたローマ時代後期（コプト期）に至るまで、実に3000年間に及びます。

遺跡の存在は、黎明期の古代エジプト調査の記録にも残っていますが、本格的な学術調査は1981年に開始されました。以来、40年近くに亘って、日本隊による調査が続いています。2002年からは、遺跡のランドマークとなっている岩山の南側（南区）で、前1000年前後の集落址の調査を行っています。そこでは、農業や漁業を生業とする一般庶民が暮らしており、小規模ながら、亜麻織物やガラスビーズや皮革製履物など、さまざまな手工品の製作も行われていました。また、集落が衰退してくると、女性や子供の埋葬地としても利用されていました。南区の発掘調査と並行して、遺跡周辺の段丘上に残る石灰岩採石場址の調査も行っています。作業記録を記したグラフィティ（書き付け）や、未完成の巨像やオベリスクが発見され、プトレマイオス朝期に大規模な採石活動が行われていたことが明らかとなっています。

このように、3000年という長さだけでなく、居住・生産・交易・信仰・葬送といった、古代エジプト人のあらゆる側面を垣間見ることができる点が、アコリス遺跡の特徴と言えます。

国土館大学 世田谷キャンパス

イラク古代文化研究所 展示室

〒154-0022

世田谷区梅丘2-8-17 地域交流文化センター2F

TEL:03-5451-1926 FAX:03-5451-1927

E-mail: iraqexhb@kokushikan.ac.jp

〈交通案内〉

電車

- ・小田急線梅ヶ丘駅下車 徒歩13分
 - ・東急世田谷線松陰神社前駅又は世田谷駅下車 徒歩10分
- バス
- ・小田急線梅ヶ丘駅北口ロータリー乗り場(乗車時間約3分)等13「等々力操車所行」バスで「国土館大学」下車すぐ
 - ※運行本数が非常に少ない路線ですので運行時刻を事前にご確認ください
 - ・JR渋谷駅西口バスターミナル30番乗り場(乗車時間約30分)渋52「世田谷区民会館行」バスで終点下車、徒歩7分

